

千葉市新基本計画



平成24年3月

千葉市

はじめに

このたび、市政の基本理念や基本目標を掲げた「千葉市基本構想」のもと、将来を見据えた中長期的な市政運営の基本指針となる「千葉市新基本計画」を策定いたしました。



本市は、現在、96万市民が生活する首都圏有数の大都市に成長しましたが、近い将来、全国や首都圏全体と同様に、人口が減少に転じ、少子超高齢社会が到来するといった、これまで経験したことのない社会構造の大きな転換期に直面しています。

基本計画もそうした社会情勢の変化に的確に対応するため、拡張をベースとしたまちづくりから、今ある資産を活かした持続可能なまちづくりにシフトしていく必要があります。

そうした観点に立ち、本計画では、「財政状況に関する現状と今後の展望」について初めて掲載し、行財政改革の必要性を明確に示したほか、市民の安全で快適な生活と効率的な都市経営の両立を図るため、市街地の拡散を抑制し、市民生活に必要な諸機能を集約するなど「集約型都市構造」への転換を目指し、具体的な方策を検討することといたしました。

また、多様化・複雑化する時代の中で、市民ニーズに的確に応えるためには、市民や団体、企業など、このまちに関係する様々な主体自らがまちづくりに参画し、行政とともにまちを育てていく土壌が不可欠です。

そこで、本計画では、まちづくりのコンセプトとして「わたしから！ 未来へつなぐまちづくり」を設定するとともに、「まちづくりを支える力」を定め、市民一人ひとりから始まるまちづくりを進めていくことといたしました。

本計画の策定にあたりましては、市議会に新基本計画策定調査特別委員会を設置してご審議いただくとともに、市民の皆様をはじめ、有識者・団体・企業・大学・学生など、様々な方々にご参画いただき、計画づくりを進めてまいりました。策定に携わっていただいた皆様に、心からお礼を申し上げます。

皆様の思いが込められた、このまちづくりの計画の考え方や方向性を皆様と共有し、3つの「実現すべきまちの個性」の実現を目指し、共に本計画を推進してまいりましょう。

平成24年3月

千葉市長

熊谷 俊人

目次

■ 市基本計画	4
序 章	5
1 策定の趣旨	5
2 計画の特色	6
第1章 千葉市の概況	8
1 位置及び地勢	8
2 都市の歩み	9
3 人口・世帯の動向	12
4 財政状況に関する現状と今後の展望	19
第2章 まちづくりの重要な課題	22
1 人口減少社会への対応	22
2 少子超高齢社会への対応	23
3 環境問題への対応	25
4 グローバル社会への対応	26
5 自立・分権型都市経営	28
第3章 まちづくりの基本方針	30
1 まちづくりのコンセプト	30
2 まちづくりの方向性	32
3 目指すべき都市の構造	36
4 実現すべきまちの個性	43
第4章 計画の推進にあたって	47
1 効果的で計画的な行財政運営	47
2 様々な主体の参画と連携	47

第5章 分野別計画	49
方向性1 豊かな緑と水辺を活かした、自然とともに生きるまちへ	51
1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	53
1-2 緑と花のあふれる都市空間を創る	55
1-3 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る	59
方向性2 支えあいやすらぎを生む、あたたかなまちへ	63
2-1 健康で活力に満ちた社会を創る	65
2-2 こどもを産み、育てやすい環境を創る	67
2-3 とともに支えあう地域福祉社会を創る	69
2-4 高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会を創る	71
2-5 障害のある人が自立して暮らせる共生社会を創る	73
方向性3 豊かな心が育ち、新たな価値が生まれるまちへ	75
3-1 未来を担う人材を育成する	77
3-2 生涯を通じた学びとスポーツ活動を支える	81
3-3 文化を守り、はぐくむ	85
3-4 多彩な交流・連携により新たな価値を創る	87
3-5 市民の力をまちづくりの力へ	89
方向性4 ひと・モノ・情報がつながる、生活基盤の充実した安全で快適なまちへ	91
4-1 市民の安全・安心を守る	93
4-2 快適な暮らしの基盤をつくる	99
4-3 ひと・モノ・情報がつながる基盤をつくる	103
方向性5 ひとが集い働く、魅力と活力にあふれるまちへ	107
5-1 都市の魅力を高める	109
5-2 地域経済を活性化する	113
5-3 都市農林業を振興する	117
■ 区基本計画	120
区基本計画について	121
中央区基本計画	124
花見川区基本計画	138
稲毛区基本計画	152
若葉区基本計画	166
緑区基本計画	182
美浜区基本計画	196
■ 用語解説	210
■ 付属資料	214

市基本計画